

ませて間断なく攻める。後半一息ついたところを渡辺にとらえられ小外刈に倒れるが技有り。時間となり同点。内容差で明治の優勝が決った。明治は大会前に急性肝炎で入院した主将の河原を欠き苦戦を予想されたが、岩田副主将がチームをまとめて苦境を乗り切った。

優秀選手 明治大学 岩田久和

鮫島俊隆

中央大学 後藤誠一

国士館大学 中村 均

日本大学 田中直樹

第23回全日本学生柔道選手権大会

11月6日 大阪府立体育館

原 優勝(中量級)

中量級

[準決勝戦]

原 吉実〇 優勝勝

(明大)

後藤誠一

(中大)

吉永浩二〇 優勝勝

(明大)

奥村研二

(中大)

[決勝戦]

原 吉実〇 合せ技 吉永浩二

(明大)

(明大)

軽量級 二位 川口孝夫(明大)

選手権の部 二位 岩田久和(明大)

世界柔道選手権大会

9月2～5日 西ドイツ

優勝 篠巻、川口。二位重松、三位岩田

第七回世界柔道選手権大会が西ドイツ、ルートウィスハーヘン市で開催され、篠巻政利(無差別級、新日鉄) 川口孝夫(軽量級、明大三年)が優勝した。また重量級に出場した岩田久和(明大四年)は三位、中量級重松義成(明大三年)は惜しくも準優に終わった。

[決勝戦]

無差別級

篠巻政利

(日本新日鉄)

崩裂綏因

クズネツオフ

軽量級

川口孝夫

(日本明大)

優勝勝

野村豊和

(日本)

全日本新人体重別選手権大会

4月26日 講道館

昨年第一回大会を行った全日本ジュニア選手権大会を新人体重別選手権と改称して行われた。

優勝 重量級 吉永浩二(明大一年)

全日本警察柔道選手権大会

5月26日 日本武道館

優勝 無差別級 坂本羯正(熊本県警)

全日本選抜体重別選手権大会

7月11日 九電体育館

優勝 重量級 山本祥洋(旭化成)

全日本選手権大会出場者

村井正芳(三位)、北瀬暁一、山本祥洋、
佐藤幸二、小谷利夫、篠卷政利

明大の技 岩田久和の背負投

明柔に於ける、襟背負投の三羽ガラスとい
えば、徳山操、須磨周司にこの岩田で決りだ
ろう。両先輩の技には独特の派手さがあった
が、岩田のそれは少年時代に教わった型をそ
のまま成長させて強くした。―本人は当然異
論があると思うが―といった感じのいわば、
基本通りの技である。その点、篠巻政利の
「内股」の場合とよく似ている。外柔内剛の性
格も、両人の共通するところである。岩田は
学生時代、一七三cm、八二・三kgの中型選手
であった。岩田は「小が大に勝つ、又、勝つ
ことができる」という柔道の理念を信じて柔
道人生を過ごした男で、それにはかつく技が
最適、という考えを貫いてきた。

岩田は少年時代におぼえた背負投を高校、
大学と一心不乱にみがいていった訳であるが、
彼とて、軽量、非力が、重量、強力に対して
有利な点が、少ない事はよく心得ている。こ

の差をうめるためにやった事といえば、只々
一二〇〜一三〇kg級を楽に背負える腰をつく
る事であった。

高校時代から大学にかけて重量級を、二人
重ねてかつき上げる打ち込みを欠かした時は
なく、又、尻を強くするためにコンクリート
のかべに腰を打ちつける打ち込みをくりかえ
してアザだらけになったり、とにかく、腰を
強くしたいという一念で、様々のトレーニング
にはげんだという。

彼の柔道が注目されるようになったのは、
第二の技として右小内刈と左の一本背負をお
ぼえ、インターハイ(団体)に優勝した頃か
らであろう。小内刈は木村政彦氏の稽古を見

学し、草を刈る鎌のように右足を使う、氏の
技に魅了されて稽古にはげみ、彼なりのもの
として背負投は小内刈のパターンを固めた。

さらに左一本背負投は、高校三年生の時、
新人一年生吉永浩二(四十八年度明大主将)
にこの技で面白いように投げつけられた事に
啓発され、吉永を先生にして技の習得に頑張
り、右組みの型から左一本背負に入る体さば
きを、身につけた。

岩田は柔道を武道と認識し稽古方法などに
は頑固な信条を持っているが、その立ってよ
し、寝てよし、のすぐれた柔道センスは多く
の認めるところである。

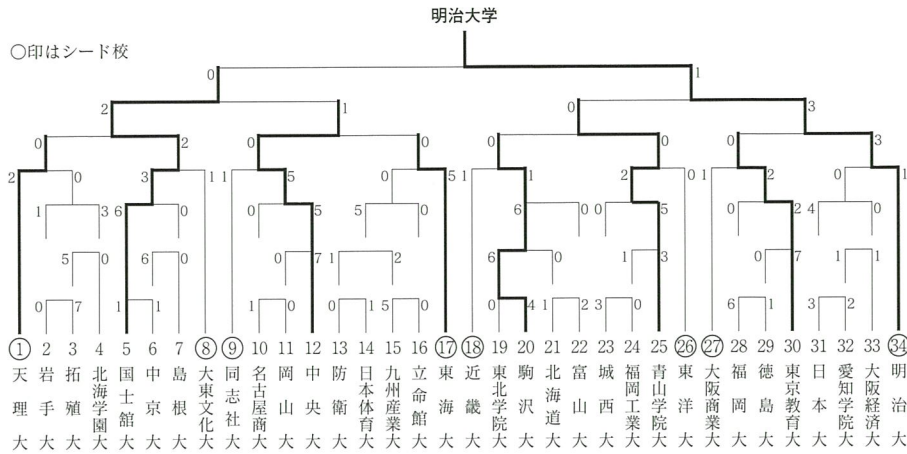


きれいに決まった岩田の背負投

第21回全日本学生柔道優勝大会

6月10・11日 日本武道館

明治連覇!



国士館大を破り、連続優勝の明大チーム

連続優勝に燃る明治、決勝の相手は国士館大学、息づまる接戦となったが明治は上村が挙げた一勝を守って勝ち連続優勝を達成した。

〔準決勝戦〕

明治大学 3-0 青山学院大学
国士館大学 2-1 中央大学

〔決勝戦〕

明治大学 1-0 国士館大学

上野清吾	引分	薦田茂久	引分
中野雅之	引分	鮫島俊隆	引分
中村均	引分	吉永浩二	引分
横倉安雄	縦四方固	上村春樹○	縦四方固
門田幸延	引分	原吉実	引分
廻 敏一	引分	飯塚 栄	引分
秋田康広	引分	加茂博久仁	引分

国士館上野の防御の姿勢に指導が出るが薦田攻め切れず引分け。中野の左大外に鮫島横倒しとなる。鮫島、小内、内股で反攻、左小内刈技有りかと思われたが中野体をひねつてのがれる、引分け。

中村長身から得意の右背負投にいくが吉永低く構えて防ぐ、国士館のポイントゲッター中村勝負に出て背負、大外巻きと攻めるが吉永団体戦のセオリーに随って無理をせず引分けに持ち込む。

上村左袖釣込みで先行、横倉右内股で応酬するが、上村落着いてさばく、ライン際横倉なおも内股でくるところ、上村これをつぶして瞬時に縦四方固に入れば横倉成すところなく一本。

挽回を期す門田、積極的に出る、原もまた守りには入らず背負、小内、内股と攻める。両者間断なく攻め合うが結果は引分け。

廻の内股を飯塚横捨身で返したが惜しくも場外、飯塚背負投にくる廻の後につき送襟締に攻めれば廻必死に場外にのがれ、時間となつて引分け。大将戦加茂かにばさみにきた秋田を寝技に引き込み一度は上四方固めに入つたかに見えたが秋田辛くも伏す。寝技の膠着状態から立って加茂右一本背負にいくのを秋田絞めを狙って寝技にもち込むが加茂これをさばいて時間、引分けとなつて明治の連覇がなつた。

優秀選手 明治大学

上村春樹

飯塚 栄

国士館大学

中村 均

中央大学

浅野隆司

青山学院大学

神守恭二

第24回全日本学生柔道選手権大会

11月6日 大阪府立体育館

上村優勝 選手権(無差別級)

〔準決勝戦〕

上村春樹○ 送り足払

(明大)

中村 均

(国士館大)

藤猪省三○ 背負投

(天理大)

遠藤純男

(日大)

〔決勝戦〕

上村春樹○ 払 腰

(明大)

藤猪省三

(天理大)

両者共に左組み、上村の払腰を藤猪防ぎ、背負の反撃に出るところを上村帯をとつて小外に返すが藤猪伏して残す。上村横捨身から寝技に引き込みアワヤと思わせたが藤猪必死にのがれる。藤猪左右の背負投、小内刈と攻めるが上村崩れない。中盤上村、藤猪を場外際に追い込み詰るところをとらえて左払腰を放てば藤猪弧を描いて飛び上村の優勝決定。

中量級 二位 吉永浩二(明大)

全日本柔道選手権大会

4月29日 日本武道館

岩田、僅差で優勝を逃がす

全日本選手権大会出場者

岩田久和(準優勝)、村井正芳、山本祥洋、篠卷政利、関勝治、河原月夫、上村春樹、佐藤幸二

ミュンヘン・オリンピック

9月1〜3日 オリンピック公園ホール

川口、金メダルに輝く

ミュンヘン・オリンピック柔道競技は九月一日から三日間、オリンピック公園ホールで開かれた。本大会日本チームの金は三個に留まったが、軽量級川口孝夫(明大四年)は安定した試合内容で世界選手権大会に続きオリンピックでも金メダリストに輝いた。

〔準決勝戦〕

川口孝夫

(日本明大)

腕挫十字固

キム・ヨンイク

(北朝鮮)

ブイダー

(モンゴル)

優勢勝

ムニエラ

(フランス)

〔決勝戦〕

川口孝夫

(日本明大)

上四方固

ブイダー

(モンゴル)

川口は予選三回戦でモンゴルの怪力ブイダーとの激しい寝技を展開筋骨を痛めたが優勢勝、準決勝で北朝鮮のキムを巴投げから寝技にはいつて抑え込んだ。決勝は敗者復活で生きかえったブイダーとの再戦となったが、右の小内刈から寝技に移ってわずか三九秒であっさり優勝した。

明大の技

川口孝夫の巴投

昔と今の技術の比較がよくいわれる。近代柔道では力も技の一つであるから、どちらが強いか、うまいか、の比較はむずかしい。しかし強引が通じない「巴投」と「足払い」は文句なくひと昔前の方が上手だった。

「巴投」についていえば、昔の人は「巴投」の「巴」の意味が解っていたから、おのずとこの技の理合いが会得できた。

近年の「巴投」はただ引っぱり込んで、身を捨てながら足裏を相手の腹にあて跳ね上げて、後ろに飛ばす投げ技である。この手順に問題はない。しかし、ここにはこの技の名称になっている「巴」がない。

物体が円状にめぐりまく「巴」がこの技の原点である。体を真うしろに捨てた瞬間、双方のからみが球となり円となって転がる、というのが「巴投」の原理である。技を施す手順に間違いはなくともこの原理をはずしていくら稽古にはげんでも本当の技にはならない。現在見られる「巴投」の多くは、円ではなく楕円である。楕円は強い力を加えなければ回転しない。円のようにまわる推力の活用ができないから、いきおい、力に頼らざるを得ない。

その結果、足の力で相手を無理やり蹴り上げるという事になる。

円の回転に例えられるほど、微妙な動きやつくりの流れから一瞬にきまるのが捨身技である。この掛けに至る一連のさばきを無視して捨身技はない。

川口孝夫（昭和四十七年度）は「巴投」の

川口か、川口の「巴投」かといわれたほどの業師であるから、初めての者は、たいてい出では投げられ、さがつては投げられ、横に動いては飛ばされるといふ事になる。「いくら用心しても足が腹にさわったと思つたら、天井を仰いでいた。もう一つ気がついて見たら、たて四方でおさえられていた」。これが彼等の感想である。

「巴」には逆巻くうず潮という意味もある。全盛期の川口の「巴投」は故郷、瀬戸内のうず潮を連想させた、といったら多少ほめ過ぎか。



業師・川口孝夫の見事な巴投

第22回全日本学生柔道優勝大会

6月30・7月1日 日本武道館

準優勝、三連覇成らず

〔準決勝戦〕

明治大学 3―2 東京教育大学

福沢寿郎 内股 ○野瀬清喜
田中弘一 払腰 ○中原一
原 吉実 引分 上木保男
薦田茂久○ 警告 山本和広
中村博之○ 内股 小俣幸嗣
吉永浩二○ 技有り 木曾 滋
飯塚 明 引分 小野冨寿雄

天理大学 2―1 東海大学

〔決勝戦〕

天理大学 3―1 明治大学

高橋政男○ 塙上四方園 福沢寿郎
岩田勝彦 引分 丸谷武久
角張 力○ 技有り 原 吉実

猿川陽一 引分 吉永浩二

奥田元則 技有り ○中村博之

竹丸有朋 引分 薦田茂久

松本 薫○ 内股透し 飯塚 明

大将戦、飯塚なんとか一本とろうと内股で攻めこむが松本にさばかれる。松本の内股を小外で返したかに見えたが場外、飯塚必死に内股を連発するが逆にこれを透かされて一本。先取点を奪われたあせりが最後まで続いたといえる。

優秀選手 明治大学

吉永浩二

天理大学

岩田勝彦

松本 薫

東京教育大学

中原 一

東海大学

柏崎克彦

第25回全日本学生柔道選手権大会

11月3日 大阪府立体育館

選手権の部 二位 吉永浩二
中量級 三位 原 吉実

全日本柔道選手権大会

4月29日 日本武道館

上村春樹頂点に立つ

〔準決勝戦〕

上村春樹

技有り

藤猪省三

(旭化成)

(クラレ)

高木長之助

優勢勝

諸井三義

(警視庁)

〔決勝戦〕

上村春樹

優勢勝

高木長之助

(旭化成)

(警視庁)

上村担ぎ技、高木は内股、大外と攻めるが力は拮抗、審判泣かせの判定勝負かと思えたが、終了一分前、上村の低い背負を高木つぶそうと追いかぶさる。上村この機をのがさず巻き込めば高木スローモーションながらごろりと仰向けになり貴重なポイント失った。

全日本選手権大会出場者

上村春樹、河原月夫、佐々木均、安斉泰人、上野武則、篠巻政利、重松義成、岩田久和

第23回全日本学生柔道優勝大会

6月22・23日 日本武道館

準決勝で敗退

〔準決勝戦〕

天理大学 1-0 明治大学

高橋政男	引分	中村博之
古川 宏	引分	加瀬次郎
山之内省三郎	引分	原 吉実
角張 力	引分	福沢寿郎
竹丸有朋	引分	丸谷武久
橋元秀利○	合せ技	飯塚 明
奥田元則	引分	田中弘一

準決勝で対戦したのは天理大。前半も決勝で対戦して敗れている。先鋒の中村から加瀬、原、福沢、丸谷が引分、勝敗のゆくえは予断を許さない展開となったが、副将の飯塚が試合開始早々、橋元に技有りをとられ、さらに内股で技有りをとられて合せ技で負け、大将の田中奮戦するが、奥田と引分、前半の雪辱はならなかった。

東京教育大学 3-2 日本大学

〔決勝戦〕

天理大学 3-1 東京教育大学

優秀選手 明治大学 原 吉実

天理大学 橋元秀利

角張 力

日本大学 喜納政美

東京教育大学 山藤哲夫

第26回学生柔道選手権大会

11月2日 大阪府立体育館

上位進出者なし

全日本選手権大会出場者

重松義成(三位)、上村春樹、吉永浩二、原吉実、須磨周司、鮫島俊隆、坂本羯正、河原月夫

世界学生柔道選手権大会

11月1〜3日 ヘルギー・ブリュッセル

優勝 原 吉実 丸谷武久

中量級

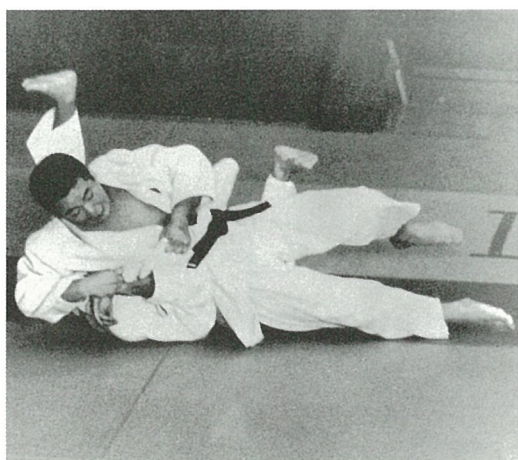
〔決勝戦〕

原 吉実 背負投 (ポランド)

無差別級

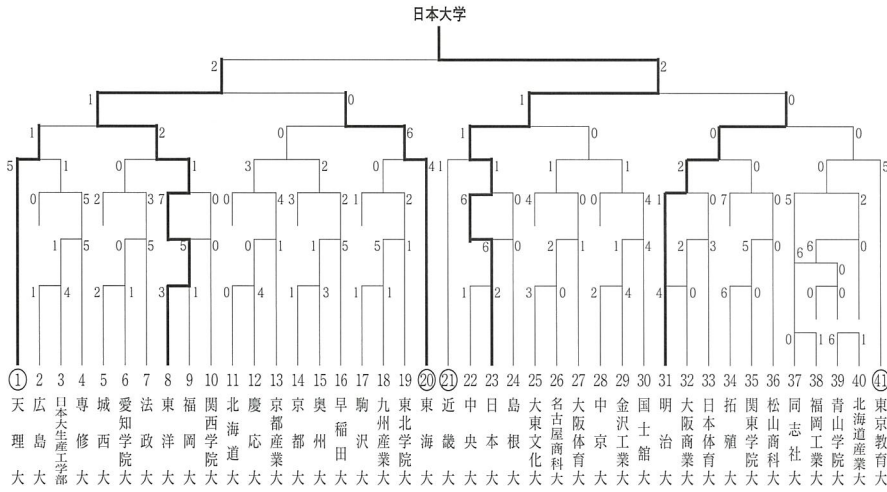
〔決勝戦〕

丸谷武久 優勢勝 チョチンビリ (明大)



丸谷対アダムチェック(ポーランド)世界学生選手権大会

闘魂の記録 1975 (昭和50) 年



またも今年も準決勝止り

第24回全日本学生柔道優勝大会
6月21・22日 日本武道館

〔準決勝戦〕

日本大学 1-0 明治大学

- 内 清治 引分 加瀬次郎
- 戸田 聡 引分 丸谷武久
- 春田 栄○ 有効 松岡孝烈
- 石橋道紀 引分 福沢寿郎
- 高木俊作 引分 相沢郁夫
- 丸尾卓郎 引分 諏訪 剛
- 田中保彦 引分 田中弘一

加瀬一本背負でかつぐが内、辛くも残す。続く加瀬の左小内に、内横倒し、立ち上がるやこんどは右の小外に内、またも横転、内容的には加瀬の一方的な攻めに終った試合だったが、「有効」はとれず引分。

丸谷、戸田はともに慎重、無理な攻めを見せず引分。松岡大外、内股と先行。中盤春田の内股に松岡横転し、これが有効となる。松岡必死の反撃を見せ一本背負を決めるが惜しくも場外、時間となる。以後福沢、相沢、諏訪、田中と攻め切れず日大にこの有効による一点を死守された。日大の気力が勝っていたということか。

東洋大学 1-0 東海大学

〔決勝戦〕

日本大学 2-2 東洋大学
(代表戦)

第27回全日本学生柔道選手権大会
11月1日 大阪府立体育館

上位進出者なし

全日本選抜体重別選手権大会
9月 福岡市民体育館

優勝(中量級) 原 吉美(新日本製鉄)
(重量級) 上村春樹(旭化成工業)

全日本柔道選手権大会

4月29日 日本武道館

上村、二度目の優勝

〔決勝戦〕

上村春樹 優勢勝 高木長之助
(旭化成) (警視庁)

上村対高木、二年前の全日本決勝の再現。上村例によって先をとって攻める。一分背負から巻込み、二分浮技、体落、三分小内から背負、高木は準決勝の疲れが残っているのか防戦一方、しかし大きなポイントはとられていないので後半の巻き返しを期待したが、逆に上村二度目の浮技に横倒しとなり、成すところなく試合終了。文句のない上村の優勢勝ち。二年前の優勝がフロックではないとばかりに初戦から好試合を演じた上村に喝采。

全日本選手権大会出場者

篠巻政利、重松義成、佐々木均、原吉実、河原月夫、上村春樹

全日本選手権大会(戦後)出場選手の出身校は毎年明治勢がトップを切っていたが本年はじめて天理勢(七名)にその座をゆずった。

世界柔道選手権大会

10月23～25日 オーストリア・ウィーン

上村優勝(無差別級) 原二位(中量級)

第九回世界選手権に明柔から上村春樹(無

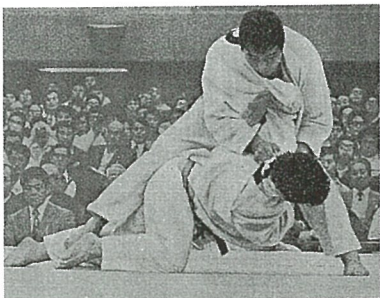
差別、旭化成) 岩田久和(軽量、新日鉄) 原吉実(中量、新日鉄) が出場した。岩田は準々、原は決勝で破れたが、上村は決勝戦以外は全試合一本勝ちという強さを発揮して優勝。

〔決勝戦〕

上村春樹 優勢勝 二宮和弘
(日本) (日本)

柔道日本一に上村五段

高木五段に優勢勝ち



全日本柔道選手権

高校生の山下、ベスト4入り

「柔道日本一」に輝いた上村春樹(五段)は、全日本柔道選手権大会で、旭化成の元柔道家高木長之助(五段)と対戦し、優勢勝ちを収めた。上村は、準決勝で高木と対戦し、一分背負から巻込み、二分浮技、体落、三分小内から背負、高木は準決勝の疲れが残っているのか防戦一方、しかし大きなポイントはとられていないので後半の巻き返しを期待したが、逆に上村二度目の浮技に横倒しとなり、成すところなく試合終了。文句のない上村の優勢勝ち。二年前の優勝がフロックではないとばかりに初戦から好試合を演じた上村に喝采。



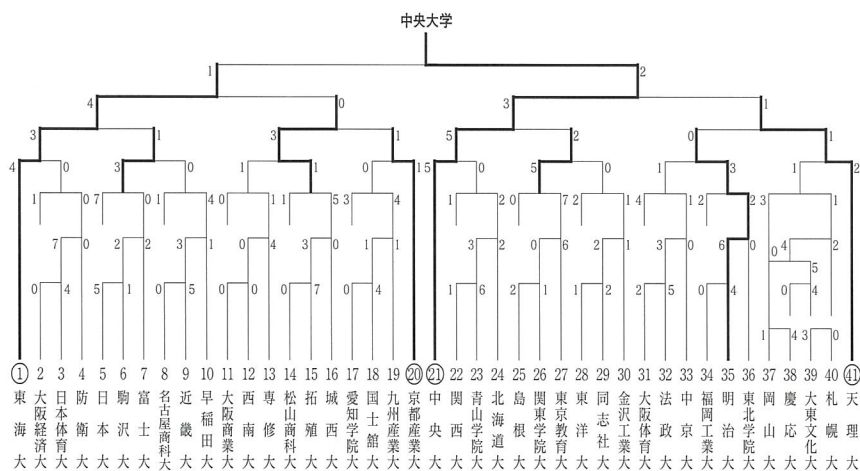
石川を寝技で成る山下(東部大相模高)

終了寸前、捨て身技

上村が会心の勝利

上村春樹(五段)は、全日本柔道選手権大会で、旭化成の元柔道家高木長之助(五段)と対戦し、優勢勝ちを収めた。上村は、準決勝で高木と対戦し、一分背負から巻込み、二分浮技、体落、三分小内から背負、高木は準決勝の疲れが残っているのか防戦一方、しかし大きなポイントはとられていないので後半の巻き返しを期待したが、逆に上村二度目の浮技に横倒しとなり、成すところなく試合終了。文句のない上村の優勢勝ち。二年前の優勝がフロックではないとばかりに初戦から好試合を演じた上村に喝采。

上村の優勝と山下の台頭を報じる朝日新聞



準々決勝で敗退

第25回全日本学生柔道優勝大会
6月12・13日 日本武道館

93kg級二位 佐藤英彦 (明大)

世界ジュニア選手権大会
12月18・19日 スペイン・マドリッド

中量級
〔決勝戦〕
加瀬次郎 技有り 山内完治
(明大) (東教大)

両者足技の応酬、後半、山内の飛び込みタックルを加瀬さばいて大腰に変化すれば「技有り」となる。

加瀬 優勝

第28回全日本学生柔道選手権大会
10月16日 大阪府立体育館

モントリオール・オリンピック
7月26～31日

決勝戦レンフリーも左組、上村先をとって背負、大内と攻め次いで出足を払えば、レンフリー膝から落ちる。レンフリーの大外はスピードがなく利かず。五分すぎ上村の背負に

- 二回戦 上村春樹 優勢勝 バク・チョンイル (日本) (北朝鮮)
- 三回戦 上村春樹 送襟絞 ルージユ (日本) (フランス)
- 準決勝 上村春樹 優勢勝 チョチョンピリ (日本) (ソ連)
- 決勝戦 上村春樹 上四方固 レンフリー (日本) (イギリス)

モントリオール・オリンピック柔道競技は、七月二十六日から六日間開催された。最終日の無差別級に出場した上村春樹は期待にそむかず初戦から終始安定した試合ぶり、準決勝で最大の難敵チョチョンピリ(ソ連)を判定で破り決勝で、レンフリー(イギリス)を上四方固に下して、オリンピック柔道無差別級初の金を日本柔道にもたらした。明柔のオリンピック金は中谷(東京) 川口(ミュンヘン)に続く三個目。

レンフリーところがり主審効果とするが両副審は認めない。七分上村の大内刈が有効となり、そのまま崩上四方に固めて一本。

全日本選手権大会出場者

坂本羯正、篠巻政利、原吉美、河原月夫、上村春樹(三位)



第15日 国際柔道連盟 A.F. ロイヤル

無差別級 金の上村
パワーに先手必勝



上村、モントリオール五輪で無差別級初の金メダル

吹っ飛んだ悲観論

ポイント作戦成功

【モントリオール14日】柔道無差別級決勝戦で、日本代表の上村春樹(27)が、フランス代表のブーゲ(28)を破り、初金メダルを獲得した。上村は、試合開始から先手必勝のパワーで、ブーゲの攻撃をかわし、ポイント作戦を成功させて、一本勝ちした。

上村は、試合開始から先手必勝のパワーで、ブーゲの攻撃をかわし、ポイント作戦を成功させて、一本勝ちした。ブーゲは、試合開始から先手必勝のパワーで、上村の攻撃をかわし、ポイント作戦を成功させて、一本勝ちした。

上村は、試合開始から先手必勝のパワーで、ブーゲの攻撃をかわし、ポイント作戦を成功させて、一本勝ちした。



柔道無差別級で王座

上村が悲願を達成 金メダル 日本は九個

高橋無差別級決勝戦で初の金メダルを手にして大喜びの上村春樹。一ベロロームで存田博徳(長年)

カン

闘魂の記録 1977,78 (昭和52,53) 年

第26回全日本学生柔道優勝大会

6月12日 日本武道館

不振、上位進出ならず

〔決勝戦〕

東海大学 4-0 中央大学

第29回全日本学生柔道選手権大会

10月16日 大阪府立体育館

上位進出者なし

全日本選手権大会出場者

重松義成、原吉美、加瀬次郎、上村春樹、
岩田久和

第27回全日本学生柔道優勝大会

6月11日 日本武道館

不振、上位進出ならず

〔決勝戦〕

東海大学 3-0 天理大学

第30回全日本学生選手権大会

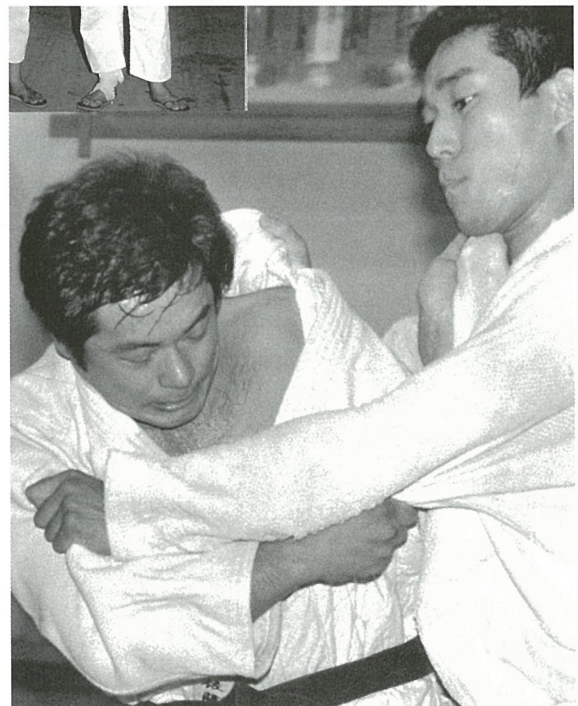
10月14日 大阪府立体育館

95kg級

三位 佐藤英彦(明大)

全日本選手権大会出場者

河原月夫、加瀬次郎、上村春樹、相沢郁夫、
鮫島俊隆、重松義成、原吉美



京葉ガス柳田と佐藤英彦(右・明大主将)

奮起を望む

一九五一年度卒 金子泰興

明大柔道部も、長い低迷が続いている。昨年から篠巻監督、上村助監督が柔道部再建の重任を担うことになった。二人とも、かつての柔道日本一である。人格指導力ともに申し分なく、まだ就任してから一年を経たに過ぎないが、徐々に強化の実が挙がりつつあるという。

学生諸君は、大いに意欲を燃やして欲しい。なんといいっても主役は学生諸君である。学生諸君が奮起して推進力とならない限り、柔道部の飛躍は望めない。

優勝は、戦って力で奪い取るもの、力のない者には、勝利の女神は絶対にはほえみはしないのだ。力を養うには猛練習以外にない。日本一になるには、日本で一番練習を多くやらなければいけないのである。

私が柔道部生活を送ったのは、戦後の、貧しさのどん底からようやく立ち直ったとは言え、食べる物にはなお事欠いていた時代だった。空腹を抱えての練習であったが、私は、主将として、決して容赦はしなかった。鍛え

に鍛えた。練習の好きな者ばかりだったから、あの条件の悪い下での、苛酷とも言える猛練習に耐えたのでありましょう。(中略)

あの当時から、茫々三十数年の歲月が流れた。モノは巷に溢れ、ルンペンまでが糖尿病にかかる豊かな時代となった。食べ物に気を配りながら猛練習に明け暮れたわれわれの時代と比較してまことに今昔の感に耐えない。学生諸君、奮起して第二の黄金時代を築いて下さい。
〔『明柔』82・L〕

監督時代を振り返って

一九六四年度卒 関 勝治



私が監督に就任しましたが、昭和五十一年三月からです。

当時鶴目先生がお亡くなりになり、昭和四十九年澄水園と姿寮が閉鎖され、柔道部も沈

滞していた時期であったと思います。就任当時、先ず私が監督としてどうしてもやらねばならない課題が三つありました。

その一つは、学生の合宿所問題、次に優秀な選手の確保と入学問題、もう一つの課題は運営資金の問題です。この三点を早急に解決して選手として私達がお世話になっていた時代のような活力ある柔道部にしなければいけないと思いました。当時二十八名の部員でしたが、とても全国制覇が出来る状態ではありませんでした。

第一の合宿所の問題ですが、澄水園、姿寮が閉鎖されて、学生の住居が目黒の合宿所だけになってしまいました。

目黒の合宿所の収容人数は、十五、六名が限度でしたが、そこに定員オーバーして二十三名もの選手を詰め込み、その他の選手は自宅と下宿から通う始末でした。

選手の鍛練する環境が十分ではありませんでしたので、学校側と再三交渉してみました。当時の学校側の姿勢は合宿所などを建てる意志が全くありませんでした。

学校側の言い分は、柔道部には既に目黒に合宿所があること。学校の経営そのものが赤字経営で、とても柔道部の合宿所予算などは考えられないとの理由でした。

そんなことで合宿所問題で苦勞していた矢先に、昭和三十三年度卒業の小林敏邦先輩が見かねて先輩の關係していらつしやる会社の寮が空いているのでお世話しようと言う、ありがたいご厚意があり、早速明柔会に計り、明柔会執行部と監督でお願いに行く事になり、小林先輩の知己であり、その寮の持主である豊田一夫氏にお願いに上がり、家賃無償で三年間貸していただけることになりました。

私は小林先輩、豊田氏の厚意のただけでいる期間中なんとしても学校側と交渉して、合宿所を建設していただく決心し、のちに監督となった篠巻君と体育課、管財課と足を運びまして図面を見ながら色々土地探しに歩きましたところ、競走部の合宿所の面積が広いので区役所の都市計画課で調べましたところ、平面積三十坪位なら建設許可がおりる事がわかりました。

そこで学校と交渉したところ、体育課長は競走部が承諾すれば学校側としては異存がないとお話しをいただくところまでごぎつけた次第です。そこで競走部と交渉して承諾を得ました。

姿先生、今は亡き曾根先生に話しましたところ、早速明柔会幹事会で検討していただくことが出来、その結果合宿所建設委員会が発

足し、明柔会の皆様の協力で、昭和五十八年八幡山に今の合宿所が完成した次第です。

当初一年間で資金が集まるとは誰も考えられなかったと思います。しかし、それが達成されました。

このことは明柔会の結束の固さを具現したものであり、諸先輩、関係者皆様のあたたかい思いやりに、一同感激にたえないところでありました。

特にこの八幡山合宿所建設にご尽力下さったのは曾根先生でした。

自ら建設委員長になり陣頭指揮を取り、その行動力は言葉では言えない程でした。

第二の課題は、優秀な選手の確保と入学問題です。それまでは明治大学の伝統と地方の諸先輩のご協力で、折にふれ優秀な選手を送っていたのですが、折にふれ優秀な選手を送るがむずかしくなかなか入学出来ないという高等学校側の認識があつて敬遠される傾向にあり、優秀な選手を集めにくい状況にありました。

入試に当り明治大学には体育審議委員会という組織があり、各学部から一般教授と体育関係の教授二名が代表になり、体育会から推薦された選手が入学資格基準に合っているかどうかを審査する仕組みになっており、そこ

で合格しなければ入学できない仕組みになっていたもので、非常にむずかしい問題でありました。そこで私は体育審議委員の先生方に積極的にお会いし、明大柔道部の伝統と今迄諸先輩が築かれた功績を説明し、ご理解を得ることが出来たとの確信を得ましたので、優秀な選手の獲得に自信を得ることが出来ました。

その結果として多くの優秀な選手が受験するようになりましたが、せっかくの優秀な選手を落とすと高校の先生方の信頼をなくすので大変でございました。

第三の課題は資金の関係で、資金不足で苦勞しました。

以前は澄水園の鶴目先生その他OBの方々に学生の生活費や学費の援助を願っていたわけですが、鶴目先生がお亡くなりになってから学費の苦しい選手への援助は全面的に明柔会で援助するようになりました。

当初は関東明柔会が主体になって資金を集めておりましたが、資金不足から全国的にお願いするようになったわけです。

私としましては我が明治大学の柔道部の復活を最大の目標に全力投入してやらせていただいたわけですが、誠に厳しいもので六年間の就任期間中一度も優勝することが出来ず、大変残念に思っております。

闘魂の記録 1979,80 (昭和54,55) 年

第28回全日本学生柔道優勝大会

6月10日 日本武道館

不振、上位進出ならず

〔決勝戦〕

東海大学 5-0 日本体育大学

第31回全日本学生柔道選手権大会

10月13日 大阪府立体育館

95 kg 超級

二位 栗原三千男 (明大)

78 kg 級

三位 下瀬孝明 (明大)

全日本選抜柔道体重別選手権大会

9月30日 福岡市民体育館

86 kg 級

優勝 原吉実 (新日鉄)

二位 諏訪剛 (京葉ガス)

全日本選手権大会出場者

原吉実、岩田久和、河原月夫、上村春樹、

鮫島俊隆

第29回全日本学生柔道優勝大会

10月26日 日本武道館

不振、上位進出ならず

〔決勝戦〕

東海大学 3-1 筑波大学

第32回全日本学生柔道選手権大会

6月14・15日 大阪府立体育館

上位進出者なし

第1回太平洋柔道選手権大会

2月10日 ハワイ

OBは頑張る

95 kg 級

優勝 上村春樹 (旭化成)

78 kg 級

優勝 加瀬次郎 (京葉ガス)

86 kg 級

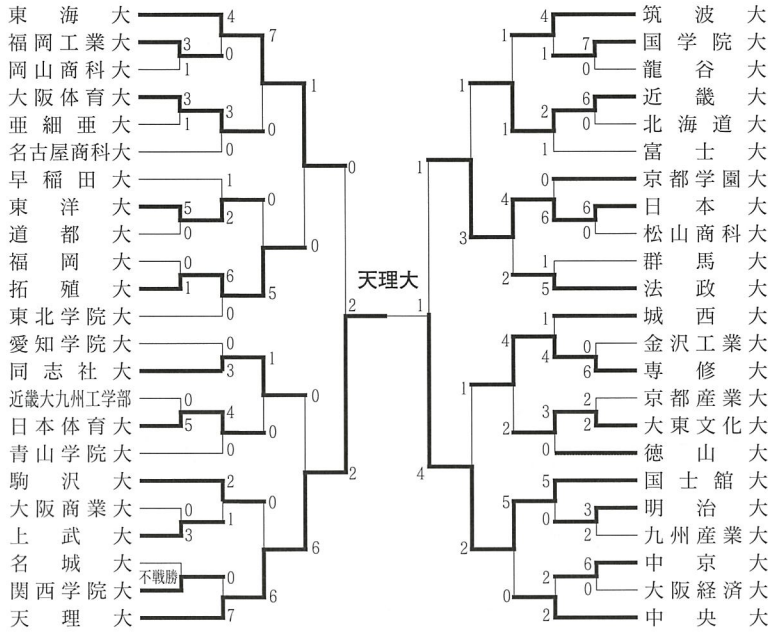
三位 諏訪剛 (京葉ガス)

全日本選手権大会出場者

河原月夫、薦田茂久、原吉実、栗原美千

男、加瀬次郎

闘魂の記録 1981,82 (昭和56,57) 年



不振、上位進出ならず
11月8日 日本武道館

全日本学生柔道選手権大会
6月13・14日 大阪府立体育館

78 kg級
二位 中村正浩(明大)

全日本新人体重別選手権大会
10月10日 講道館

86 kg級
優勝 重松裕之(明大)
全日本選手権大会出場者
河原月夫、加瀬次郎、諏訪剛

世界柔道選手権大会
9月3〜6日 オランダ・マーストリヒト

78 kg級
二位 加瀬次郎(京葉ガス)

太平洋柔道選手権大会
2月14日 愛知県体育館

95 kg級
優勝 河原月夫(愛知県警)
無差別級
二位 中村博之(三菱重工)

第31回全日本学生柔道優勝大会

9月4・5日 愛知県体育館

不振、上位進出ならず

〔決勝戦〕

東海大学 3―2 天理大学

第1回全日本学生柔道体重別選手権大会

6月5・6日 日本武道館

従来、秋に行っていた全日本学生選手権と体重別の二つの大会を今回から新たに別に行うことになり大会名も秋の全日本学生選手権に対し、春は全日本学生体重別選手権と銘打って、一層学生柔道の選手強化を図ることとした。

60 kg級

二位 小山賢司（明大）

65 kg級

二位 今堀浩之（明大）

全日本学生柔道選手権大会

11月7日 大阪府立体育館

上位進出者ならず



嘉納杯国際柔道、諏訪対シューロフ戦

嘉納杯国際柔道大会

11月 日本武道館

95 kg級

優勝 諏訪 剛（京葉ガス）

全日本選手権大会出場者

丸谷武久、薦田茂久、藤原敬生

第32回全日本学生柔道優勝大会

9月3日 日本武道館

準決勝で敗退も上昇の気運

〔準決勝戦〕

東海大学 1-0 明治大学

須貝 等	引分	古賀 智
田代光恭	引分	朝飛 大
田所勇二	引分	中村正浩
斉藤和男	引分	藤鷹浩一郎
滝吉直樹○	合せ技	木村忠光
樋川 純	引分	長谷川 敦
松島享一郎	引分	熊谷雅之

三将戦、東海大の滝吉大外刈技有りからそのまま抑えて一本。追う明治は副将、大将に望みをつないだが果せず敗退。然し本大会、漸く上昇の気運が見え出した。

〔決勝戦〕

東海大学 3-2 天理大学

優秀選手 (関係分)

明治大学 中村正浩

第2回全日本学生柔道体重別選手権大会

6月5日 日本武道館

86 kg級

優勝 朝飛 大 (明大)

78 kg級

二位 中村正浩 (明大)

65 kg級

三位 今堀浩之 (明大)

全日本選抜柔道体重別選手権大会

7月10日 福岡市民体育館

78 kg級

二位 加瀬次郎 (京葉ガス)

全日本柔道選手権大会

4月29日 日本武道館

山下泰裕 (東海大教員) が無敵の七連覇。明柔関係では、藤原敬生が前年準優勝の松井勲五段を破ったが、準決勝で山下に敗れた。学生選手の活躍も目立ったが、残念ながら明大選手の名は出てこない。

全日本選手権大会出場者

藤原敬生、諏訪剛

学生の活躍を伝える
朝日新聞の記事

学生の活躍目立つ

ことしの全日本選手権は学生選手の活躍が目立った。「金百本クラス」の實力があると思われ、藤原五段にそれぞれ一本勝ち。東海大の佐藤監督を「持つ」力をすべて出したと盛はせた。また、中村四段も柔快な技で勝ち進んだ。

須貝、須貝の二人は「全日本」の大会に出場するだけであつた。須貝も、学生柔道界にとつて明るい材料だ。初戦は初戦を、昨年この大会ベスト4で新納治五郎に破る。白藤四段と対戦、終始「い」と言葉を使わずに。

第33回全日本学生柔道優勝大会

9月1・2日 日本武道館

準決勝で敗退

〔準決勝戦〕

天理大学 3-0 明治大学

優勝 東海大学

第3回全日本学生柔道体重別選手権大会

6月2・3日 日本武道館

71 kg級

二位 青野浩三(明大)

世界学生柔道選手権大会

12月6〜9日 フランス・ストラスブール

朝飛、長谷川代表に

世界学生柔道選手権大会がフランス・ストラスブールで開催され明治から86kg級の朝飛大、90kg級長谷川敦が出場したが共に上位進出はならなかった。

全日本選抜柔道体重別選手権大会

5月2日 福岡市民体育館

95 kg級

二位 諏訪剛(京葉ガス)

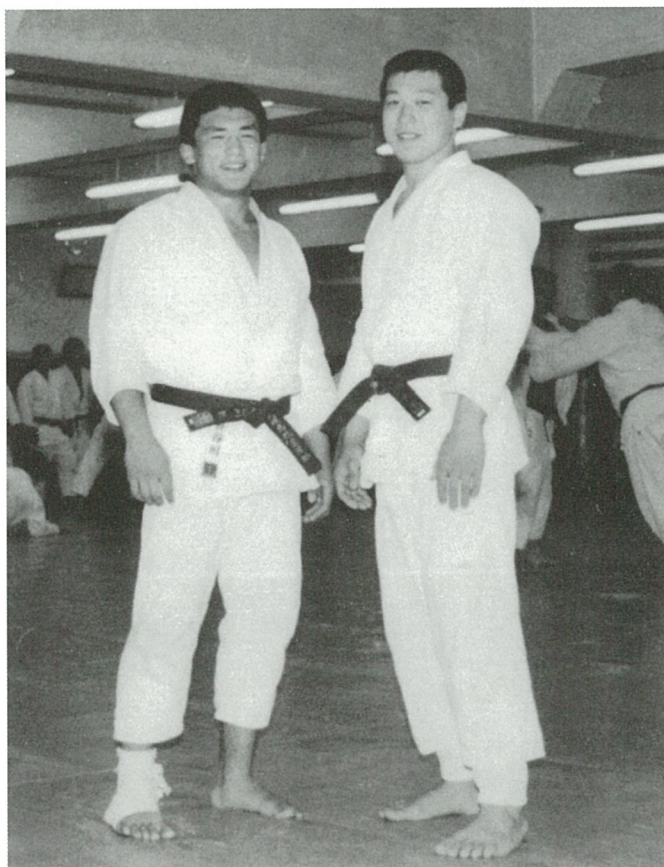
全日本柔道選手権大会

4月29日 日本武道館

山下泰裕五段(東海大教員)が八連覇。明柔勢は三回戦で敗退。全日本学生柔道優勝大会でも東海大が連覇。東海大、天理大にはばまれて明治復活ならず。

全日本選手権大会出場者

藤原敬生、諏訪剛



左・長谷川敦、右・朝飛大

第34回全日本学生柔道優勝大会

6月29・30日 日本武道館

喝！ 不振極まる、奮起を望むのみ

団体戦、優勝から見離されて久しいが、ともあれベスト8には名をつらねてきた。しかし今大会では決勝トーナメントに進むのがやっとという惨状、また、個人戦、二大会とも上位進出者はなしという部史上(戦後)最低のチーム記録となった。まさに非常事態である。

講道館杯体重別選手権大会

4月7日 講道館

86 kg級

優勝 諏訪 剛(京葉ガス)

全日本選抜柔道体重別選手権大会

11月4日 福岡市民体育館

86 kg級

二位 長谷川 敦(明大)

全日本選手権大会出場者

栗原三千夫、檀上治享、加瀬次郎、藤原敬生、朝飛大



東京学生優勝大会3回戦明大対早大、長谷川の内股決まる

明大の技 新垣修の蟹挟

カニバサミはきらわれるものである。ついに禁止技となってしまった。ケガの率の高さを考えればやむを得ないということか。もともとカニバサミは主流ではないものの特に危険視される技ではなかった。「みな体さばきが出来ていたからじゃ」と姿先生はおっしゃる。だいいち、「二本」や「技有り」につながらないこの技は大きな試合などでは見かけなかったものである。しかし、ポイント柔道にかわってから、このカニバサミがにわかにかろうズアップされてきた。しりもちをつかせるだけで「勝ち」のポイントにつながるからである。互いに組み合うことをきらう最近の柔道で、片襟だけとっていけば仕かけることの出来るこの技が多くなっていったのはけだし当然であろう。ケンカ四つで引き手争いをする相手方半身の間合いは即、カニバサミのチャンスである、特段のつくりや崩しを要しない。最近の試合につきものの双方タックルとカニバサミは、ポイント柔道がはやらせた鬼ツ子技である。

明治の道場では当然亜流の技であるが、唯